

■(納屋)呂宋助左衛門 和泉国堺の伝説的貿易商人。織豊時代にルソンに渡海し、貿易商を営むことで巨万の富を得た。
るそんすけざえもん
將軍義輝自刃1565＝ この頃、_堺の貿易商で、堺の自治を取り仕切っていた納屋衆の一人納屋才助の子に生まれる。

織田信長入京1568＝ 3歳：

長島一揆鎮圧1574＝ 9歳：この年、マニラ地域で、林鳳率いる倭寇とスペイン軍と先住民の同盟軍との間で“マニラの戦い”。

本能寺の変・1582＝17歳：この年、フアン・パブロ・デ・カリオン提督率いるフィリピン・スペイン軍と、日本人タイ・フーサ率いる倭寇との間で行われた一連の衝突“カガヤンの戦い”が起こる。

賤ヶ岳の戦・1583＝18歳：

秀吉全国統一1590＝
利休切腹・・・1591＝26歳：西領フィリピンに朝貢と服属を要求する国書を持たせて降服を勧める使者としてマニラに派遣、
文祿の役・・・1592＝27歳：豊臣秀吉による朝鮮侵攻に関連して、スペイン領フィリピンは、日本とは人の往来が活発で、秀吉が交渉した南方諸国の中では唯一交戦の可能性があった。ルソン島を往復していた貿易商原田孫七郎(ガスパル・ハラダ)が、フィリピンの防備が手薄なのを知って秀吉にこの国を征服は容易であると上奏したことから、秀吉は孫七郎の策を受け入れ、フィリピン総督ゴメス・ベレス・ダスマリニャスと会った孫七郎は、名護屋で秀吉に謁見した。僅かながら入貢があった事実とフィリピンの対応に秀吉は満足し賞した。孫七郎は第二の国書を送るように進言したが、今度の使者は孫七郎の主人にあたる原田喜右衛門が務めることになった。

方広寺大仏殿1593＝28歳：喜右衛門はマニラに到着して第二の国書を総督に渡した結果、宣教師ら3名を使者とし、メキシコ産の駿馬、玻璃の鏡、鍍金した壺などを贈物として通商同盟条約を申し出ることになり、名護屋で秀吉に謁見、秀吉はフィリピン総督が服従しなければ征伐すると脅すも巧妙に返答、さらに、パテレン追放令後の神父を失っていた京都で大歓迎され、豊臣秀次の配慮で修道院が建設されることになった。この間、_小琉球と呼ばれていたフィリピンのルソン島に渡航、

ルソン島通交・・・1594＝29歳：マニラから新たに3名の宣教師が来て、京坂地方での布教活動を活発化させ、信徒を1万人増やし、大名クラスもこの頃に洗礼を受けている。_帰国し、石田光成の兄で、堺の代官だった石田李助を介して、豊臣秀吉に、蠟燭、麝香、真壺、唐傘、香料など珍品を献上の上、ルソン壺50個をご覧に入れると、秀吉は、非常に喜び、大坂城西の丸の広間に陳列、上中下三段階の値段をつけて、希望者を募ったところ、ほぼ完売、残った3個は、秀吉自身が買い入れている。茶の湯の流行で、珍奇な茶器を所蔵するのがステータスを示していたことから、大儲けをしたのである。以後、秀吉の保護を得て日本屈指の豪商として活躍、自邸は贅沢を極め、招かれて訪れた松永久秀は、わざと柱に刀で傷つけ、'満月はいつか欠けるもの'と戒めたという。

26聖人殉教・1596＝31歳：フィリピン総督が現在のメキシコに派した船が日本近海で難破して起きたサン＝フェリペ号事件で、スペイン王とポルトガル王を兼ねるフェリペ2世が強大なるを知って脅威に感じ、

慶長の役・・・1597＝32歳：キリシタン弾圧を強め、通商同盟条約の使者全員を処刑したことで、遠征の噂は絶えなかったが、
豊臣秀吉没・1598＝33歳：_あまりに華美な生活を好んだため、石田三成ら文治派の讒言によって、秀吉から身分をわきまえずに贅を尽くしすぎるとして邸宅没収の処分を受けることになるが、事前に察知し、邸宅や財産を菩提寺の大安寺に寄進して、日本人町のあるルソンへ脱出。秀吉は病に倒れて死去してしまい、

関ヶ原の戦・1600＝35歳：
朱印船制始・1601＝36歳：

儒官始・・・1607＝42歳：_徳川家康の時代になるも、海外貿易は盛んであったが、幕府の御朱印船による貿易支配に対応できず、
_スペインがカンボジアに介入した後に、ルソンからカンボジアに渡海し、そこでカンボジア国王の信任を得て、再び豪商となったというが、以後、不明。
大阪府堺市の堺旧港に銅像があり、同市の大安寺に助左衛門の墓といわれているものがある。